

下水道、農業集落排水事業 がスタート

今年度からスタートする公共下水道事業と農業集落排水事業の特別会計が、今定例会で承認されました。

◇下水道事業

公共下水道事業が六十二年度から始まります。

今年度は、四千四百三十八万円で、県が事業主体となって施行する「米代川流域下水道事業」に対する負担金などが予算に組み込まれています。県が施工することの事業は、下水処理場や主要幹線の下水管工事、中継ポンプ場などを建設します。この建設費用は、約百五

がスタート

億円で、国、県、大館市、比内町、田代町が負担することになります。また、市が事業主体となる「大館市公共下水道事業」は、事業が認可された後に着手します。市の事業としては、約四百五十億円で県が埋設した幹線までの下水管工事や汚水ポンプ場建設などがあり、六十七年度から一部使用開始を予定しています。

◇農業集落排水事業

最近、農業用排水が家庭などから出る水で汚れ、農作物の生育障害や悪臭の発生などの問題が起きています。そこで農業集落排水

事業で集落内の汚水と雨水を分離し、生活排水については汚水処理施設で処理し、雨水については排水路に流す施設を整備するもので、公共下水道区域外の農村集落が対象になります。

計画では、餌釣地区を対象として、今年度から三カ年事業で総事業費二億二千万円で行います。今年度は千五百二十五万円で調査や測量などを行い、六十三年度から工事に着手する予定となっています。

市老人福祉センター

センターを設置

雪沢地区にある旧県立大館老人福祉センターが今年一月十日に当市に移譲され、「大館市老人福祉センター」として使用することになりました。



このセンターは、老人福祉対策の一環として、高齢者の健康増進と生きがいを高めるための活動拠点として設置するもので、改装工事をを行った後、十二月ごろにオープンする予定です。

都市計画用途地域の

変更について

御成町地区の都市計画街路「沼館線」両側五十メートルと大館駅・東大館線の御成町側五十メートルを近隣商業地域に、また市道二丁目線の北側を商業地域に、それぞれ用途を変更し、大館駅周辺再開発事業を含めた商業振興の核として位置づけ、県北部の広域商業都市としての都市基盤の整備を図っていきたくと考えています。(左の図のように変更)

その他の行政報告

- 水田農業確立対策の取り組み
- 市立総合病院長の任命
- 除雪対策と今後の対応

「小さな親切」 実践都市を宣言

“人を信じ、人を愛し、人につくす。——大館市は、3月19日の市議会最終日に「小さな親切」実践都市を宣言しました。

昭和38年に発足した「小さな親切」運動は、現在では全国的に組織され、会員185万人、参加団体9,600、実践都市宣言20市町村となっており、年々その輪が大きくなっています。こうした中で、小さな親切運動大館支部と大館商工会議所から出されていたこの実践都市宣言についての陳情が、昨年の3月市議会で採択されました。これを受けて、今定例会で畠山市長が「小さな親切」実践都市を宣言しました。

この宣言は、市民一人ひとりが思いやりや助けあう心を持ち「小さな親切」を実践して連帯の心を深め、市民自らの手で明るく住みよい大館市をつくっていかうとするものです。

市民の皆さんのご理解とご協力、そして小さな親切をすすんで実践しましょう。

健康で明るく豊かな潤いと生きがいのある住みよい郷土をつくるため、すべての市民が人を信じ、人を愛し、人につくす心を持ち、思いやりや親切、礼儀を実践することが、極めて大切である。

このため「小さな親切」運動に対する関心を高揚し、かつ、その実践を促進するため、ここに「小さな親切」実践都市を宣言する。

